

た、N原子とCl原子がそれぞれ閉殻（電子が8個）になるような共有結合のしかたを考えると $-N \equiv N - Cl$ となり、⑥が正解だと判断できます。なお、 $-N^+ \equiv N - Cl^-$ という電荷の偏りは、

Clの電気陰性度が大きいからです。化学では、知識の暗記は大切ですが、物質の反応や構造の原理の理解も大切です。

## 国語

基礎評価型・総合評価型ともに国語の基礎的な学力を問う問題です。現代文では、漢字や語句の問題からはじまり、さまざまな形式で文章の論理を問います。古文では、単語・文法という基礎中の基礎から、その基礎にもとづく読解問題が配置されています。また、文学にかんする知識を問う問題も、大学入学後の必須知識として出題しています。

正答率の低かった設問については、そのパーセンテージも付しています。あわせて参考にしてください。

### 基礎評価型-国語①

現代文の問題文は、東京大学の入学式や卒業式の式辞にかんする平易な文章です。本文中の記述を根拠として説明を求める問題が中心です。

問一：漢字問題では同音異義語のある紛らわしい選択肢に注意しましょう。Cの正答率が約34%で、漢字問題でもっとも低いものでした。「無惨」と「無残」の二つが正解の候補になりますが、「惨」の字をふくんだ熟語は選択肢にはありません。それゆえ、「残」の字をふくんだ選択肢①が正解になります。漢字問題は選択式ですが、手で書いて練習するのが習得の近道です。

問二：接続詞補充問題は、段落間の関係などに注意しましょう。

問三：空欄補充問題です。「ろ」の問題の正答率は約26%、「ほ」の問題の正答率は約33%でした。「ろ」の場合、①「優越感」と④「免罪符」の二択となりますが、前段で指摘されている他者にたいする想像力の限界という問題や、空欄のすぐ後の「危うさ」という表現に注意すれば、空欄をふくむ「精神的〇〇」とは、してはいけないことやできないことをすることに、もっともらしい理由をつける内容である、と推測されるでしょう。また、「ほ」の場合、巨大な「権力構造」を〇〇するものを選択するわけですから、⑤「醸成」以外は不適切になります。「権力」ではなく「権力構造」であることに注意が必要です。

問四：語句の意味を問う問題です。分からない語句が出てきた場合、推測で済ませるのではなく、辞書などで意味を調べるようにしておきましょう。

問五：傍線部の内容を問う問題です。本文のなかで「想像力」がどのように定義され、そしてその限界がどのように述べられているのかに注意しましょう。

問六：傍線部の内容を問う問題です。「教育の本質の問題」については、傍線部以降の段落で述べられています。「教え授ける者」と「学ぶ者」という関係について述べた箇所や、「知識とその使用方法に関する体系を伝達する過程の中に、価値観がしのび込んでいる」といった内容が、問題を解くうえでキーフレーズになります。正答率は約37%でした。

問七：問題文で欠けている一文を選択肢のなかから選択する問題です。空欄の前後の文脈を整理したうえで、選択肢の内容を考える必要があります。空欄の前は引用文ですから、空欄に入る文章は引用文と関連した内容になり、まず⑤が除外されます。また、①と②も選択肢の内容が本文の内容と合致しないので除外されます。空欄のあとの段落では、彼ら（大学紛争当時の学生）が問いただした内容の本質を述べており、引用文と学生の問の本質とを関連づける一文が、もっとも適当なものになります。④の選択肢の「この最後の一文」というフレーズも参考になるでしょう。正答率は約28%でした。

問八：本文の内容と照らし合わせると、「アクティブ・ラーニング」の問題を問う問題です。「アクティブ・ラーニング」に価値観が忍びこんでいる可能性があるという点が、本文では指摘されています。

### 基礎評価型-国語②

古文の問題文は、『増鏡』の「承明門院の他界」と「後嵯峨上皇

の高野御幸」の一段にかんする問題です。設問はいずれも基本的なものです。文法（品詞分解や敬語等）・単語を単体で問うばかりでなく、それらが組みあわされた設問もありますが、基本が押さえられていれば難しくはないでしょう。

問一：「し」の識別は、古文読解の能力を問うための問題です。基本的な古文の文章について、品詞分解ができるようになっておきましょう。八種類の「し」をすべて適切に理解する必要があったためか、正答率は約25%と低いものでした。

問二：敬語の対象を問う問題です。c「いたづき奉らせ給へるに」のみ正答率がやや低く（約61%）、文法・単語の両面から考えることが大切です。

問三：漢字の読みかたを問う基本的な問題です。

問四：基本古語の知識を活用して現代語訳しましょう。「御なやみ」「心のどか」「心もとなし」などの単語や、「べし」「じ」の用法に注意しましょう。

問五：傍線部の内容を問う問題です。承明門院についての内容であること、「ことわり」の意味を理解していること、これらが重要です。

問六：傍線部の内容を問う問題です。問題文で記載されている、後嵯峨院・顕定・公基のエピソードを正確に読みとくことが重要です。

問七：傍線部の内容を問う問題です。傍線部の主語・目的語に注意したうえで、文法・単語の両面からも考えましょう。

問八：傍線部の内容を問う問題です。問七と同様で、傍線部の主語・目的語に注意したうえで、文法・単語の両面からも考えましょう。

問九：傍線部の内容を問う問題です。問題文に登場する人物の関係性を理解していないと、正確に解くことができません。

問十：文学作品にかんする知識を問う問題です。正答率は約25%と低いものでした。

問十一：文学作品にかんする知識を問う問題です。正答率は約52%でした。

### 総合評価型-国語①

現代文の問題文は、ユダヤ人哲学者であるマルティン・ブーバーの『我と汝』について、志慶眞文雄が書いた文章です。仏教関係の用語があり、一見すると難解ですが、論旨じたいはシンプルです。設問数は多くありませんが、特に問五・問六・問七などは選択肢と本文とを照らしあわせて丹念に読む必要があり、それなりの解答時間を要するでしょう。

問一：同訓異字には日常から注意しておきましょう。漢字問題は選択式ですが、手で書いて練習するのが習得の近道です。

問二：接続詞補充問題は、段落間の関係などに注意しましょう。

問三：空欄補充問題です。「い」の問題の正答率は約27%、「は」の問題の正答率は約30%でした。「い」の場合、「かつて」を「かつて」と表記する場合もあることに注意が必要です。「は」の場合は、選択肢がすべて四字熟語であり、四字熟語の知識も求められます。

問四：語句の意味を問う問題です。分からない語句が出てきた場合、推測で済ませるのではなく、辞書などで意味を調べるようにしておきましょう。

問五：「依他性」「分別性」「真実性」という三つの見方について、問題文でどのように定義されているのか、そして三つの見方はどのような関係性にあるのか、この二点の理解が必要です。難解な仏教用語ではありますが、問題文ではいい説明があります。正答率は約37%でした。

問六：傍線部の内容を問う問題です。問題文で指摘されているブーバーの「対応語」の内容をふまえれば、正解は容易に導けるでしょう。正答率も約89%でした。

問七：傍線部の内容を問う問題です。問六とも関連しています。「このことば」のなかに出てくる「根源語」「単独語」「対応語」の

内容をおさえたいうえで、「このことば」がなぜ重大な意味を持つのか、問題文に即して考えましょう。

問八：問題文の内容について、正誤を問う問題です。誤った内容を含む選択肢を選択することに注意しましょう。

### 総合評価型-国語②

古文の問題文は、壬生寺の本尊の地藏菩薩にまつわる説話であり、かつ中世の物語であることから、文章の長さ比べて読みやすかったのではないのでしょうか。

文法（品詞分解や敬語等）・単語を単体で問うばかりでなく、それらが組みあわされた設問もあります。現代語訳問題は基本的な語彙・文法知識を組みあわせれば解けるでしょう。

問一：文法の知識を総合的に問う問題です。動詞の一部なのか、助動詞なのか、係助詞なのか、八種類すべて識別する必要があります。1の正答率は約7%、2の正答率は約16%、3の正答率は約49%でした。

問二：「に」の識別の問題です。八種類の「に」について、格助詞あるいは格助詞の一部なのか、断定の助動詞なのか、連用形あるいは連用形の一部なのか、識別する必要があります。4の正答率は約33%、5の正答率は約32%、6の正答率は約18%でした。

問三：語句の活用や敬語の対象を問う問題です。設問のうち、9の正答率が約24%と最も低いものでした。

問四：語句が指し示している内容を問う問題です。文脈をきち

んと把握する必要があります。甲の正答率は約27%、丙の正答率は約30%でした。

問五：語句の意味を問う問題です。学習用古語辞典に基本古語として掲載されている語ですので、きちんと理解しておきましょう。

問六：漢文の読みかたと関連づけた問題です。漢文についての文法知識（ここでは再読文字や否定）が必要です。

問七：「たべかし」の「た」に当てられる漢字（「賜」）を知っていることと、その漢字の熟語についても知っていることが必要です。正答率は約24%でした。

問八：基本古語の知識を活用して現代語訳しましょう。「病」「おこたる」「見えければ」の意味に注意しましょう。

問九：傍線部の内容を問う問題です。傍線部の主語・目的語に注意したうえで、文法・単語の両面からも考えましょう。

問十：傍線部の内容を問う問題です。問題文全体の内容を理解していることが求められます。

問十一：「半時」がどの程度の時間に相当するのかを問う問題です。古文の時代と現代とでは多くの面で価値観が異なります。時間の基準もその一つです。語句を文字どおりに感覚的に理解するのではなく、当時の文脈で理解することが大切です。正答率は約32%でした。

問十二：狂言にかんする知識を問う問題です。（1）の正答率は約36%、（2）の正答率は約61%でした。

## 音楽実技

教育学科の音楽重視型では、音楽実技による選考が行われました。課題曲（ピアノ）では、楽譜を正しく理解し、基礎的なテクニックと適切な表現力が備わっているかを判断しました。

自由曲では、各自が選択した弾き歌い・ピアノ・声楽・管楽器の演奏を通して、それぞれの分野に必要な読譜力、演奏技術、表現力が備わっているかを判断しました。

総合型選抜  
公募型学校推薦選抜  
英公募型学校推薦選抜  
語  
数公募型学校推薦選抜  
学  
生公募型学校推薦選抜  
物  
化公募型学校推薦選抜  
学  
国公募型学校推薦選抜  
語  
一般選抜  
一般選抜英語  
一般選抜日本史  
一般選抜世界史  
一般選抜生物  
一般選抜化学  
一般選抜数学  
一般選抜国語

国語 ①

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は 1 ～ 23。

一九九五年(平成七年)一月十七日未明に阪神・淡路地方を襲った大地震は、人々の記憶に深く刻まれる未曾有の災禍でした。その七日後、三月二十八日に神戸市で開かれた至聖式(せいせいしき)の式辞には、当然ながらこの惨事への言及が見られます。犠牲となった人々への哀悼(あいとう)の意と、生活環境の一日も早い復活を願う気持ちが表示された後、式辞はこのように続きます。

震災の一日後、神戸の町を歩き、激しく倒壊した家屋を實際に見たその夜、私は何年振りかで鮮明な恐ろしい夢を見ました。それまで、映像などを通じて多過ぎるほどの情報を得ていたと考えていたのですが、それは間違っていました。当初の混乱は a 取まって居たにも拘らず、被災した町を見るとき受けたものは映像から得た情報とは全く別物でした。そしてそのことは、被災した人々の恐怖と無念さを、被災せずに、そしてその後も離れた場所にいる私には感じることがむずかしい、という経験でもあったわけでした。

若い読者の中にはまだ生まれていなかった人も少なくないでしょうが、当時、立ち並ぶビル群が崩壊し、高層道路が途中で断裂し、街のあらゆるところが凄惨な光景を目にした人々は、誰もが命を落とす犠牲者(さけび)たちを思い馳せ、被災者たちの先に待ち受けているであろう困難(くわんなん)日々を思っ心(こころ)を痛めたにちがありません。そして他者の経験(きんけん)を頭の中で思い浮かべ、自分との距離を可能な限り縮める能力(のうり)のことを、私たちは「想像力」と呼んできました。しかしそれが災害によるものであれば病気に由来するものであれば、他人の死はあくまで他人の死であって、自分の死ではありません。たとえ肉親の死であっても、この事実が変わりはないというのが、ゲンセンたる事実です。 b 他人の被害はあく

まで他人の被害であって、自分の被害ではありません。だから仮に純粋な善意から湧き出た同情(どうじょう)があったとしても、安易に「被害者の気持ちをかろうとする」ことは、けっして「被害者本来の意味における想像力の表れ」ではないことを、私たちは自覚すべきでしょう。

自分で絶対(ぜったい)に経験(きんけん)しないことをあたかも経験可能(きんけん)であるかのように錯覚(さくかく)して他者に感情移入(かんじんいり)することは、一種の精神的「ろ」を手(て)にすること(じ)なかりかたない危うさを秘めています。むしろ、被害者でない者は被災者の立場を完全に共有することなどできないという事実(じじつ)を冷静(れいじやう)に見つめることから、本当の想像力が作用(さくごん)するのではないのでしょうか。

吉川総長は右の引用で、映像などを通して得られた「多過ぎるほどの情報」と、実際に現地に足を運んで「被災した町を見るとき受けたもの」とはまったく別物(べつぶつ)であったことを告白(こくはん)し、被災者ではない自分には被災者たちの「恐怖(おそ)と無念(むねん)」を感じる(かんじ)ことがむずかしいと実感(じつかん)したことを率直(すうじき)に語(か)っていますが、そこで思考(しこう)を停止(ていし)してしまうのではなく、この一節の後では「被災した人々と、していないものとの間に横たわる感性(かんせい)の違い」に c ことから、震災に関するさまざまな課題の検討(けんこう)が可能(かぬき)になるのではないかと述べています。つまり、被災者と被災者ではない自分との間にはけっして乗り越えられない絶対的(ぜったい)な距離(きょり)がある、しかしその距離の存在(そんざい)を意識(いしぎ)することによって初めて、これららなすべきとも見えてくるのではないのでしょうか。これはテレビで災禍(わざ)の映像(えいさう)を見ていただけではけっして到達(とったつ)することのできなかつた認識(にんしき)でしょう。

(中略)

吉川総長時代の新生(しんせい)生(せい)として、一九六〇年代後半から七〇年代前半に社会(しゃかい)を席巻(せきま)した学生運動(がくせいうんどう)は生まれる前(まへ)のできごとであり、すでに過去の歴史(れきし)となつていたにちがありません。しかしこれをただの記憶(きおく)として葬(むす)り去(さ)るべきではないというのが、一九九六年(平成八年)四月十二日の入学式(にゅうがくしき)で語(か)られたことでした。

吉川(よしかわ)は紛争(まじまじ)の当時、まだ就任(しゅうにん)二年目の若手教官(わかしゅ)のひとりでしたが、二学部に発生した問題(もんだい)がまたたく間に全学部へと広が(ひろ)っていくのをまのあたりにして、そのエネルギーの巨(こ)さに圧倒(あつぱく)された経験(きんけん)を語(か)っています。 c そのエネルギーが、やがて重なる大学の制度(せいど)にたいする異議(いぎ)申し立て(てい)を超えて、教育(きょういく)の本質(ほんしつ)の問題(もんだい)へと向(むか)っていったことを指摘(しめさ)します。

紛争(まじまじ)の拡(ひろ)がりとともに、その課題(たきい)は制度(せいど)や管理運営(かんりえんいん)の具体的な内容(ねいよう)を出(だ)て、教育(きょういく)の本質(ほんしつ)へと向(むか)って行(い)きました。それは教(きょう)えるとは何(なに)なのか、という疑問(ぎもん)であり、教(きょう)えるもの、すなわち教官(きょうかん)が、一方的(いつぱく)に教(きょう)えることの内容(ねいよう)や方法(はうほう)を決(き)めてしま(しま)うことへの疑問(ぎもん)であったと言(い)うことが出来ます。しかし、決(き)めてしま(しま)った内容(ねいよう)や方法(はうほう)そのものの反論(はんろん)でなく、決(き)めるというそのことへの異議(いぎ)申し立て(てい)であったことが特徴(ていしやく)です。教育(きょういく)の内容(ねいよう)や方法(はうほう)への反論(はんろん)なら、それを修正(しゆしん)することで解決(けつげつ)の道(みち)が拓(ひら)けたと思(おも)われます。しかし教官(きょうかん)が決(き)める、というそのことへの異議(いぎ)申し立て(てい)である以上(いじょう)、教育(きょういく)そのものの素材(そくざい)を専門(せんもん)家の側(がわ)に任せ、手法(ていぽう)についても理論(りろん)と経験(きんけん)とが教官(きょうかん)の専門(せんもん)知識(ちしき)としてある以上(いじょう)、その立(た)ち応(お)えることは教官(きょうかん)にとって理解(りかい)を超(こ)え、当時の教官(きょうかん)の困(こ)惑(わく)は極めて大き(おほ)かったと言(い)うことが理解(りかい)されます。

これは今の学生(がくせい)たちにとっては意外(いがい)なことかもしれせん。小学校(しょうがっこう)以来(いらい)、中学校(ちゅうがっこう)でも高等学校(こうとうがっこう)でも、先生(せんせい)が生徒(せいと)に教(きょう)えるべき内容(ねいよう)や方法(はうほう)を決(き)めるのはあたりまえのことであり、それは大学(だいがく)に進学(しんがく)しても基本的に変わ(かわ)ることがないというのが、通(つう)常(じょう)の感覚(かんかく)だと思(おも)われるからです。

d 一九六〇年代(にじゅうろくねんだい)後半(こうはん)から七〇年代初頭(しちじゅうねんたいしゅう)にかけてかつてない高(たか)まりを見せた大学紛争(だいがくまじまじ)は、誰もが自明(じめい)のこととして受け入(い)れられていたこの図式(ずしき)そのものに疑問(ぎもん)符(ふ)を突(つ)つけたのでした。そして総長(そうぢやう)も右(みぎ)の引用(しやうよう)箇所(か所)の後(のち)で触(ふ)れているように、これは日本(にっぽん)だけの話(わ)ではなく、フランスの五月(ごご)危機(きき)を始め(はじめ)として、多くの国(くに)でほとんど同時(どうじ)多発(たはつ)的(てき)に起(おこ)った事態(じたい)だったので、そもそも「教授(きょうじゆ)」という肩書(かたがら)は文字通(もんじつう)り「教(きょう)え授(じゆ)ける者(もの)」という意味(いみ)です。しかし「学(がく)が首(くび)である学生(がくせい)との間(ま)には知識(ちしき)と経験(きんけん)において圧倒(あつぱく)的な差(さ)があることが前提(ぜんまい)となつています。だからここで、あなたも水位(すいび)の低い(ひくい)ところから低い(ひくい)ところから水(みづ)が流(なが)れてい(い)るように、教授(きょうじゆ)が所有(しゆりやう)している豊富な知識(ちしき)や経験(きんけん)をまだじゅうぶんな知識(ちしき)や経験(きんけん)を有(あ)りしない学生(がくせい)たちの頭(かぶ)に e ことが「教育(きょういく)」である、という理念(りねん)が長いあいだ信(しん)じられてきたのでしよう。

e 自分(じぶん)よりも無知(むち)な教授(きょうじゆ)に教(きょう)わりたいと思(おも)う学生(がくせい)などいないでしようから、教育(きょういく)にせうした機能(きかぬ)があること自体(こゝろ)は否定(ひてい)できません。吉川(よしかわ)総長(そうぢやう)も、「教育(きょういく)は、永(とこ)く過去(かこ)を通じて現在(げんざい)までに、人類(じんるい)が獲得(かくとく)し、考(こう)察(さつ)し、そしてケンシヨウ(けんしやう)を経て認知(ちにかん)された知識(ちしき)とその使用法(しやうりやう)の体系(たいけい)を、現在の世代(げんざい)に伝(でん)達(たつ)する作業(さぎやう)である」ことを認(ま)めています。しかしその後(のち)ですぐに、あくまでも「伝(でん)達(たつ)すべきものは知識(ちしき)とその使用法(しやうりやう)の体系(たいけい)であつて、価値観(かちかん)ではない」と述(の)べられていることに注意(ちゆうい)しなければなりません。

一人(ひとり)一人(ひとり)の教官(きょうかん)は、紛争(まじまじ)の当時(たうじ)、そして今(いま)、自(みづか)らの価値観(かちかん)を学生(がくせい)に押しつけようと思(おも)うことにはない、仮(か)にある価値観(かちかん)の正当性(てうぢやうせい)を自(みづか)らの信念(しんねん)に従(したが)って主張(しやうぢやう)し、学生(がくせい)がそれを受け入(い)れるかどうかについての自由(じゆう)は完全に保証(ほしょう)されたいと思(おも)われます。

従(したが)って問題(もんだい)があつたとすれば、このよう(よう)な一人(ひとり)一人(ひとり)の教官(きょうかん)の意(い)図(ず)とは別に、教育(きょういく)の体制(たいせい)が自然(じぜん)に価値観(かちかん)の強制(きやうせい)を生(せい)み出(だ)していること(こと)の可能性(かぬき)です。制度(せいど)上(じやう)は強制(きやうせい)は存在(そんざい)しません。法律家(はうりつが)として、あるいは法(は)学(がく)専(せん)門(もん)と仕事(しごと)がしたいという意(い)図(ず)にもとづいて法(は)学(がく)部(ぶ)へ、従(したが)って文(ぶん)科(か)一(いっ)類(るい)に入学(にゅうがく)するのであり、また物理(ぶつり)学(がく)者(しや)になりた(た)い人(ひと)や、技(ぎ)術(じゆつ)者(しや)になりた(た)い人(ひと)は理(り)科(か)に入学(にゅうがく)し、そして各(かく)学(がく)科(か)へ進(しん)学(がく)することになるでしよう。そこには何(なに)らの強(きやう)制(せい)はなく、学(がく)生(せい)の自(みづか)ら自由(じゆう)な選(せん)択(たく)があります。

しかし、より詳細(しんじゆ)に教育(きょういく)の実態(じたい)を見ると、そこにはむずかしい問題(もんだい)が含ま(ふくま)れていることに気が(き)きます。簡単(かんぱん)な表現(ひょうげん)を許(ゆる)して頂(いただき)くと、こうなりましよう。それは知識(ちしき)とその使用法(しやうりやう)に関する体系(たいけい)を伝(でん)達(たつ)する過程(ていけい)の中(なか)に、価値観(かちかん)がし(し)び込(こ)んでいる、ということ(こと)です。

総合型選抜  
公募型学校推薦選抜  
英  
公募型学校推薦選抜  
語数  
公募型学校推薦選抜  
学生  
公募型学校推薦選抜  
物化  
公募型学校推薦選抜  
学  
国  
公募型学校推薦選抜  
語  
一般選抜  
一般選抜英語  
一般選抜日本史  
一般選抜世界史  
一般選抜生物  
一般選抜化学  
一般選抜数学  
一般選抜国語

# 国語 (基礎評価型)

「 X 」

問題なのは個々の教員の価値観ではないし、その価値観を押しつけようとする権威主義的な振舞いでもない。学生はそんなものに抑圧されて自由を失ってしまうほどや、わ、ではない。彼らが問いに付したかったのは、大学の中で長いあいだされてきた、目に見えない巨大な「権力構造」なのであり、それを無意識のうちに再生産し強固してきた「教育」という概念そのものなのである——従って大学紛争とは、教育制度、教育の内容や方法、また教育環境そのものへの不満や、イデオロギーの対立、あるいは産学共同への反対などを課題としつつ、しかしより根源的には、価値自由な学問の伝承という本来の教育への危機意識を目標としていた」と、吉川総長は結論づけています。

二十一世紀に入ってから二十年以上が過ぎた今、大学でも教授が学生に一方的に知識を与える講義形式の授業が見直され、学生主体の討議型授業、いわゆる「アクティブ・ラーニング」が大規模に取り入れられるようになってきました。これは教授の言うことを受け身で頭に詰め込むのではなく、他の学生たちとの対話を通しての考え方を自己を構築する手法であるという意味で、基本的にはたいへん有意義な試みであると思います。

しかしこの授業方法自体にも何らかの「価値観がしのび込んでいる」可能性はないかということ、一度考えてみる必要があるでしょう。「 Y 」これはまさに、暗黙のうちに特定の価値観を押しつけることにはなりません。

このように、教育と価値観との関係は一筋縄ではいかない側面をはらんでいるのであり、その意味で吉川総長の問題提起は、これからの教育を考える上でも重要な観点を含んでいると思います。

(石井洋一郎「東京大学の式辞」歴代総長の語る言葉による)

注1 卒業式「東京大学の卒業式、本郷キャンパスの宏田講堂（大講堂）でおこなわれた。  
 注2 吉川総長「当時の東京大学の総長「第二十五代総長」であった吉川弘之（一九三三）」のこと。精華工学、一般設計学を専門とする

工学者。

注3 五月危機「一九六八年五月にフランスのバリで起こった、学生運動に端を発した大規模な反体制運動、およびそれに伴うフランス政府の政策転換。  
 注4 文科一類「東京大学の科類の一つであり、法律と政治を中心とした社会科学全般の基礎を学ぶ。

問一 〓線部A、Fの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～⑥の中から一つずつ選び、マークしなさい。

解答番号は 1 6。

- A キョコウ
- ① 駐車のキョカが下りる。
  - ② キョセイを張って威嚇する。
  - ③ マンションをタイキョウする。
  - ④ 国際法に違反したホウキョウ。
  - ⑤ かたくなにキョゼツする。
- B アイトウ
- ① アイシユウ漂う温泉街。
  - ② 父がアイセキした遺品。
  - ③ アイマイな返事に困る。
  - ④ アイショウが良い人。
  - ⑤ アイイロの和服を着る。

C ムザン

- ① ザンショ見舞いを送る。
- ② アンザン折願のお守り。
- ③ シンザン者を温かく迎え入れる。
- ④ ザンテイ的な措置を考える。
- ⑤ ザンシンな比喩を使用する。

D ケンゼン

- ① ケンソウ的な世界観。
- ② 理想的な未来のケンゲン。
- ③ 父親のイケンを保つ。
- ④ 川のスイケンを探る。
- ⑤ 賞味キケンに注意する。

E ケンショウ

- ① 激しいケンマクで怒鳴る。
- ② 特定の対象をケンオオス。
- ③ プツケンの下見をおこなう。
- ④ ケンソシ的な介護をおこなう。
- ⑤ 書類ソウケンの手はずを整った。

F カイキ

- ① メンカイの禁止。
- ② もやもやがヒョウカイした。
- ③ チョウウカイ免職の処分。
- ④ 転職カイシが多い。
- ⑤ カイトウ乱麻の投球。

問二 〓記号は一度しか選べません。

解答番号は、 a が 7、 b が 8、 c が 9、 d が 10、 e が 11。

- 問三 〓記号は一度しか選べません。
- 解答番号は、
- ① ましてや a が 7、 b が 8、 c が 9、 d が 10、 e が 11。
  - ② たえば ③ もはや ④ しかし ⑤ もちろん ⑥ そして
- 〓記号は一度しか選べません。
- 解答番号は、
- ① い が 12、ろ が 13、は が 14、に が 15、は が 16。
  - ② 非現実的 ③ いびつ ④ 屈辱的 ⑤ 唐突
  - ③ 優越感 ④ メソッド ⑤ 特効薬 ⑥ 免罪符 ⑦ メリット
  - ④ 希望を寄せると ⑤ 没入する ⑥ 絶望する ⑦ 思いを致す
  - ① 刻み込む ② 流し込む ③ 定着させる ④ 盛り付ける ⑤ 押し込む
  - ① 崇拜 ② 干渉 ③ 提起 ④ 蓄積 ⑤ 醸成

問四 線部甲「未嘗有の」、乙「席卷した」、丙「涵養する」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は、甲が17、乙が18、丙が19。

- 甲「未嘗有の」
- ① 今も世も変わらないありふれた
  - ② 原因の分からない奇妙で不可思議な
  - ③ 人間の想像力を越えた進歩もない
  - ④ 今まで一度も起こったことのない珍しい
  - ⑤ 異常なほど同時多発した

- 乙「席卷した」
- ① 影響力を持つようになった
  - ② 人々の注目的になった
  - ③ 急速に勢力を拡大した
  - ④ 激しい競争を勝ち抜いた
  - ⑤ 高い評価を獲得した

- 丙「涵養する」
- ① じっくりと養い育てる
  - ② 強引に養い育てる
  - ③ 豊かにする養分を得る
  - ④ 他者のための養分とする
  - ⑤ 配慮して養護する

問五 線部I「言葉本来の意味における想像力の表れ」とありますが、どのような思考のあり方を指しているのでしょうか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は20。

- ① 他者の置かれた状況や他者の経験したとは、自分自身にも起こりうる可能性があることを意識し、そこから思考をはじめるといこと。
- ② 他者の置かれた状況や他者の経験したことを、自分自身の場合に置き換えて当事者として考え、他者に感情移入して課題を丁寧に検討すること。
- ③ 他者の置かれた状況や他者の経験したとは、絶対に共感できないと思考停止するのではなく、ありとあらゆる角度から共感できるかを考え続けるといこと。
- ④ 他者の置かれた状況や他者の経験したことを、自分自身も同様と感じることができるよう、さまざまな立場の人々の例を参照して、考え方の幅を広げるといこと。
- ⑤ 他者の置かれた状況や他者の経験したとは、あくまで他者のものであり、一人一人が個別に有する類のものであることを認識した上で思考をはじめるといこと。

問六 線部II「教育の本質の問題」とは、どのような問題でしょうか。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は21。

- ① 大学によって教育の内容があらかじめ決定されており、教える当事者である教官がその内容を決定することができないという問題。
- ② 大学によって教育制度が決定されるため、学生が教官を選択することができず、学生よりも無知な教官に教わる可能性が存在するという問題。
- ③ 教育現場では教官の有する豊富な知識や経験が一方的に教授されるのみであり、対話を媒介として多種多様な見方を発見する機会に欠けているという問題。
- ④ 教官が有する豊富な知識や経験およびその使用法を学生に伝えるという教育のあり方では、教官と学生の関係を含んだ対立構造が隠れており、価値中立的ではないという問題。
- ⑤ 教育に関する理論や経験が教官の専門知識である以上、教育の手法は教官が決定するのであるが、教育の手法への要望があつたとしても、教官は何も対応できないという問題。

問七 問題文中の「X」に入る文として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は22。

- ① ここでは競争を解決するために必要なのが明快に指摘されており、社会全体で学生たちの思いや発言に耳を傾け、彼らが将来を歩んでいけるよう全力で支援することが大切である、という主張が読み取れます。
- ② なるほどその通り、と思わず頷きたくなる言葉ではありませんが、考えてみれば、当時の教育において教官の側が決められる領域は少なく、価値観が忍び込んでいるとは、どこまで客観的な根拠をもってそう言えるのかわかりません。
- ③ 価値観が忍び込んでいるという指摘自体は、特に目新しいものではありませんが、その場にいた新入生たちはおそろしく、自分たちがこれから体験するであろう教育現場の問題を指摘され、驚いたにちがいません。
- ④ この最後の一文には、競争当時の学生たちがなぜあれほどにも息苦しい抑圧感・閉塞感を覚えていたのか、なぜあれほどにも過激な形で異議申し立てを行わずにいられなかったのかについての、明快な解釈が集約されています。
- ⑤ 学生たちの反発や不満の背景には、社会に対する不信や教育制度への不満といった根本的な問題があり、教官の価値観は些末な問題であつて、政府や教育機関関係者が学生に真摯に向き合う必要があるのです。

問八 問題文中の「 Y 」の箇所では、「アクティブ・ラーニング」という授業方法がもたらす問題について述べられています。問題文の主旨と合致した「アクティブ・ラーニング」における問題の説明として最も適切なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 23。

- ① アクティブ・ラーニングでは、積極的に発言すること、主体的に活動することが高く評価され、人前で発言することの苦手な学生、自分から行動を起こすことが苦手な学生が否定的に評価される可能性がある。
- ② アクティブ・ラーニングでは、教官の役割が従来の授業とは異なる形で求められるため、議論を適切に進行したり、学生の意見を整理して他の学生に伝えるなど、新たな技術や教育方法の習得が必要となる可能性がある。
- ③ アクティブ・ラーニングでは、グループで協力して課題に取り組むことが多く、他者との連携やリーダーシップについて興味のない学生には無意味な授業となってしまう可能性がある。
- ④ アクティブ・ラーニングは、対話やグループ活動を中心におこなわれることが多いため、内容によっては、授業時間を大きく超過してしまう可能性がある。
- ⑤ アクティブ・ラーニングでは、グループワークの場所やコンピューターなどが必要になる場合があり、これらの設備が不足している場合は、実施が困難になる可能性がある。

(国語①問題 おわり)

国語 ②

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は 1 ～ 22。

正嘉元年の春の頃より、承明院御なやみ重らせ給へば、院もいみじうおどろかせ給ひて、御修法なにかと聞えつれど、つひに七月五日御年八十七にてかくれさせ給ひぬ。ことわりの御年の程なれど、昔の御名残と、あはれにいとほしう、いたゞき奉らせ給へるに、あへなくて、御法事などなごころにおきてのたまはする、いとめでたき御身なりかし。

明くる年八月七日、御子坊に給ひぬ。御年十なり。よろづ定まりぬる世の中、めでたく心のどかにおおるべし。そのまたの三月二十日なり。高野御幸とせ、またこしかな行く末もためしあらじと見ゆるまで、世いとなみ、天の下のさわざには侍りしか。関白殿、前右大臣、内大臣、左右の大将、檢非違使の別當をはじめ残るは少し。馬・鞍・隨身・袋・人・雑色・童・髪・かたち、髪まで、かたはなるなくえりととのへ、心を良くしたる疾ひども、数々筆に及びがたし。

(中略)

後土御門内大臣定通の御子、顕定の大納言、大将のぞみ給ひしを、院もさりぬべく仰せられければ、除日(オ)の夜、殿の中のものども心づかひ(カ)して侍るを、心もとなく思ひあへるに、ひきたがへて、先に聞えたる公基の大臣にぞおはせしやらん、なり給へりしかば、怒みにたへず、頭おろしてこの高野にこもり給へるを、いとほしくあへなしと思されければ、今日の御幸のついでに、かの室をたづねせ給ひて、御対面あるべく仰せられ進はしたるに、昨日までおはしけるが、夜の間に、かの庵をかき払ひ、跡もなくしなして、いと清けに、白き砂子ばかりを、ことさらに散らしたり見えて人もなし。我が身は桂の葉の室の山荘へ逃げ上り給ひにけり。

そのよし奏すれば、今更に見えじとこなり、いとからい心かなとぞのたまはせける。

(増補による)

問一 線部 A の「し」の説明として正しいものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 1。

- ① 過去の助動詞「き」の連体形は、三個ある。
- ② 形容詞の活用語尾またはその一部は、一個ある。
- ③ サ行四段活用動詞の活用語尾は、一つもない。
- ④ 強意の副助詞は、一つもない。
- ⑤ 名詞の一部は、二個ある。

- 注1 正嘉元年(一二五七年)。
- 注2 承明院(後醍醐院の祖母、源在子)。
- 注3 院(後醍醐院)。
- 注4 おきて(誓願して、命令して)。
- 注5 二の御子(後醍醐院の第二皇子、桓仁親王。後の龜山天皇)。
- 注6 坊(皇太子)。
- 注7 高野(高野山を指す。現在の和歌山県北部にあり、山全体が真言宗寺院・金剛峯寺の境内である)。
- 注8 先に聞えたる公基の大臣(この記述より前に「先」に聞えつる」と記される。公基は、太政大臣・二条実氏の子。後に右大臣になったので、「大臣」と呼ばれている)。

# 国語（基礎評価型）

総合型選抜

公募型学校推薦選抜

英

公募型学校推薦選抜  
語数

公募型学校推薦選抜  
学生

公募型学校推薦選抜  
物化

公募型学校推薦選抜  
学

公募型学校推薦選抜  
国

公募型学校推薦選抜  
語

一般選抜

一般選抜英語

一般選抜日本史

一般選抜世界史

一般選抜生物

一般選抜化学

一般選抜数学

一般選抜国語

- 問二 ……線部 a ～ g について、誰に対する敬意を表すものでしょうか。最も適当なものを、後の①～⑤から一つずつ選び、それぞれマークしなさい。(同じ記号を何度選んでもかまいません。解答番号は **2** ～ **8**。)
- 1 「おどろかせ給ひて」  
2 「かくれさせ給ひぬ」  
3 「いたづき奉らせ給へるに」  
4 「おきてのたまはする」  
5 「坊にあ給ひぬ」  
6 「なり給へりしかば」  
7 「仰せられ」  
8 後醍醐院  
9 承明門院  
10 二の御子  
11 顕定  
12 公基
- 問三 ……線部ア～オの漢字と読み方(現代仮名遣い)の組み合わせとして、**適当ではないもの**を、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **9**。
- 1 ア 「檢非違使」 …… けびいし  
2 イ 「隨身」 …… すいじん  
3 ウ 「舎人」 …… しゃうど  
4 エ 「雑色」 …… ざつしき  
5 オ 「除目」 …… じもく
- 問四 ……線部(1)～(6)の口語訳として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **10** ～ **15**。
- (1) 御なやみ重らせ給へば  
10 ① ご病氣について深刻に思われたので  
② ご病氣が重篤におなりあそばされたので  
③ ご病氣についてのご心痛がひどくおなりあそばされたので  
④ 後醍醐院についてのご心痛が絶えなくおなりになったので  
⑤ ご自身に関する心配事が多くおなりになったので
- (2) 心のどかにおぼさるべし  
11 ① のんきなことよとお思いになるに違いない  
② 穏やかな世の中だとお感じになった  
③ 心安らかにお思いになるだろう  
④ 余裕があることを実感なさっている  
⑤ くつろいでお過ごしになれるはずだ
- (3) こしかた行く末もためしあらじ  
12 ① 過去にも未来にも例のないことだろう  
② これまでの経験とはまったく違うはずだ  
③ 将来にとって手本とならないだろう  
④ 来た方向も行く方向もまるで見当がつかない  
⑤ 難路を越えて進めるか試されているのかもしれない

- 13 (4) 筆にも及びがたし  
① 書きとめられないほど頓挫だ  
② 書くことができないほど素晴らしい  
③ 書くことがばかられるほど散々だ  
④ 書くことの重要性はない  
⑤ 書くことが難しいほど複雑だ
- 14 (5) 心もとなく思ひあへるに  
① 怪しげだと思っているうちに  
② 不満なことだと思っているうちに  
③ 皆がほんやりとしていらつちやつたところ  
④ 互いに面白くないと思つていたところ  
⑤ 互いに待ち遠しく思つていたところ
- 15 (6) 頭おろして  
① お願いをして  
② 謝罪をして  
③ 髪をほどいて  
④ 出家して  
⑤ 下を向いて
- 問五 ……線部 I (2) とわりの御年の程なれど」とありますが、その指し示す内容として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **16**。
- 16 ① 後醍醐院と承明門院は、絶縁なつて長年経っていたが  
② 後醍醐院が、承明門院の法事への参加を拒み続けていらつちやつたが  
③ 後醍醐院が、承明門院の法事を行わねど当然の二年齢であったが  
④ 承明門院は、おじくになりになるのも不思議でない二年齢であったが  
⑤ 承明門院が、世間との関わりをお絶ちになつて長年経っていたが
- 問六 ……部 II 「怨みにたへず」とありますが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **17**。
- 17 ① 顕定は大将に会いたいという願いを伝えていたにもかかわらず、後醍醐院は、間違つて公基に「顕定が会いたいと言っている」と伝えたため、顕定は後醍醐院に対して怨みに思っている。  
② 大将の位を授けると顕定は言っていたにもかかわらず、後醍醐院が、言葉を選んで顕定ではなく公基に与えたため、顕定は後醍醐院に対して怨みに思っている。  
③ 顕定は大将の地位に就き、後醍醐院もそれを喜んでくれたにもかかわらず、公基の讒言により大将を辞任せざるを得なくなったため、顕定は公基に対して怨みに思っている。  
④ 顕定は大将に会おうとしており、後醍醐院がそのお膳立てをしたにもかかわらず、公基が邪魔をして顕定と大将は会えなかったため、顕定は公基に対して怨みに思っている。  
⑤ 顕定は大将の地位を望んでいたが、後醍醐院がその願いは分不相応であると退け、大将になることができなかつたため、顕定は後醍醐院に対して怨みに思っている。

# 国語（基礎評価型）

問七 ー 線部Ⅲ「いとほしくあへなしと思されれば」とありますが、その指し示す内容として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 18。

① 公基が、頼定のことを、かわいがっていたに期待外れなこととお思いになったので

② 後醍醐院が、公基のことを、愛しく残念なことをお思いになったので

③ 後醍醐院が、頼定のことを、敬愛しつつも恨めしいこととお思いになったので

④ 頼定が、後醍醐院のことを、敬愛しつつも恨めしいこととお思いになったので

⑤ 頼定が、自身のことを、悲しくも仕方がないこととお思いになったので

問八 ー 線部Ⅳ「今更に見えしとなり」とありますが、その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 19。

① 高野御幸の時に会いに行くと伝えたところ、御幸の前夜に頼定が庵を引き払い、すっかり片付けてしまっていたことから、もはや後醍醐院に会うまいという頼定の覚悟を示したのだと推測している。

② 事前に会いに行くと言ったにもかかわらず、院が庵に行ったら、頼定が不在である上、庵に白い砂をまき散らしてあったことから、後醍醐院は怒りを感じ、今後は決して頼定に会うことはないと思いを固めている。

③ 後醍醐院が頼定に会いたくないという意向を伝えたにもかかわらず、頼定は庵を片付けて桂の葉室へと移ってしまっていたことから、頼定は自身を恥じており後醍醐院に合わせる顔がないのだと心情を想像している。

④ 事前に会いたくないと伝えたにもかかわらず、後醍醐院が庵に通り見た時には、すでに頼定が庵を引き払っていたことから、公基と仲直りすることも二度と会うつもりもないという頼定の意思表示だと考えている。

⑤ 後醍醐院は、頼定が桂の山荘に引越す前に会いたかったのだが、使いにやっただけで頼定が行き違ったと見えなかったため、役目を果たせなかった公基に落胆しており、今後こうした仕事を任せまいと決意している。

問九 ー 線部Ⅴ「いとからい心かな」とありますが、その指し示す内容として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 20。

① たいそう残酷な世間の評判だなあ

② 私にはたいそう苦しく感じられるなあ

③ 公基はたいそう不愉快な思いをさせられるなあ

④ たいそう頼定に敵しくあたってしまったなあ

⑤ たいそう敵しい頼定の心情だなあ

問十 問題文と同様に、十三世紀の宮廷のことを描いた文学作品を、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 21。

① 栄花物語 ② 方丈記 ③ 雨月物語 ④ とはすがたり ⑤ 土佐日記

問十一 次に挙げる文学作品のうち、描かれている時代が最も新しいものはどれですか。次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 22。

① 増鏡 ② 今鏡 ③ 吾妻鏡 ④ 大鏡 ⑤ 水鏡

(国語②問題 おわり)

# 国語（総合評価型）

国語 ①

次の文章は、志願文雄がマルティン・ブーバーの哲学書『我と汝』について書いたものです。読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は 15、19。

ブーバーのこぼれを考えると、浄土真宗を受け取り、浄土真宗を考えたブーバーのこぼれを受け取るというのが、わたしのこぼれ。数十年の問思修（問くこと、読むこと、考えること、実行すること）であった。

「世界は人曲のどる」の態度によって二つとなる。二に続くことは、

人間の態度は人間が語る根源語の二重性にもとづいて、二つとなる。

ブーバーは、人間の態度はこぼれによって決定されることをまず主張する。こぼれは、本来切れないものをあえて切る道具である。本来切れないものは、切られたのと同じではない。

a 道具である言語には限界がある。このこぼれの限界を意識しながら論ずるための第二の釈迦と三言われる龍樹菩薩（二五〇―二五〇年頃）である。限界があるけれど、こぼれはなにが表現できない。だからこぼれはこぼれによってありあらず名付けることを「假名」と言う。こぼれの「月」は、月そのものではない。「月」というこぼれは月そのものを差す指ではない。指は月ではない。

b 指は何を指したかによって、わたしたちが何をみるかが決定される。c というこぼれを語るかによって、わたしたちが何をみるかが決まる。何をみるかが決まるということは、その態度が決まるといえることである。態度が決まるということは、どういふ世界を生きていくか決まるということである。

その態度を決めるほどの重要なことばを、ブーバーは根源語と命名し、その根源語の内容を明確にしている。

根源語とは、単独語ではなく、対応語である。

と、いきなり根源語とは対応語であるとの重要な見解が述べられ、そして根源語である対応語には二種類あることが初めて明らかにされる。

根源語の一つは、「われーなんじ」の対応語である。

他の根源語は、「われーそれ」の対応語である。

この場合「それ」のかわりに「彼」と「彼女」のいずれかに置きかえても、根源語には変化はない。

「われーそれ」の「それ」は対象化、分別化、プランゲン化、固定化、物質化された「もの」であるが、人においては、三人称の「彼」や「彼女」に置きかえてもよいのである。「われーそれ」は、「われー彼」、「われー彼女」と置き換えることが可能である。「彼」とか「彼女」という呼びかけは、対象化した「それ」に他ならない。

したがって人曲の「われ」も二つとなる。なぜならば、根源語「われーなんじ」の「われ」は、根源語「われーそれ」の「われ」とは異なったものだからである。

ここでブーバーは、「人曲の「われ」も二つとなる」という驚くべきことを示す。

「われ」といつら一つであって「われ」が二つなどというこぼれは、わたしは考えたこともなかった。われーなんじの世界を生きて「われ」と「われーそれ」の世界を生きて「われ」とは、まったく異なる「われ」である。だから「われ」は二つあると「われ」が二つあるということは、「われ」が生きていく世界が二つあるということである。

「世界は人間が語る根源語の二重性にもとづいて、二つとなる。」  
 心の底に響き渡るような結論である。プーバリの話には、いつもドキドキさせられる。  
 プーバリは「根源語とは、単独語ではなく、対応語である。」と述べている。そのために、この短い「根源語とは、単独語ではなく、対応語である。」というこぼしは、気にとめなければ読み飛ばしてしまいがちである。しかし、このことばは、仏教から言えば、大変重大な意味をもつ。つまり、キー・ワードである。なぜキー・ワードであるか。  
 わたしたちは日頃、「自分」がいてると思ってる。 **d**、「自分以外のもの」(それ)があると認めて生きている。要するにわたしたちは、「わたしはわたし」と「それはそれ、あなたはあなた」と、センテンス的にバラバラに「わたし」(それ)、「あなた」が存在していると考えている。それがわたしたちの正しいと思ってる普通の考え方、感じ方である。もとより「おれ」がいて、「おまを」がいて、そして「物」があつて、それはあたりまえのことだと、疑うこともない。どなたかは深く思い込んでいる。  
 このセンテンス的に「わたし」(それ) (あなた)が存在しているという考え方は、プーバリが前提にできなかった「根源語とは単独語である」という視点である。  
 するとまず、実体化した単独語「われ」(それ)、「なんじ」があり、その単独語が関係づけられて「われーなんじ」、「われーそれ」ができてくる。すると「われーなんじ」の「われ」と「われーそれ」の「われ」は同一の実体化した「われ」のままである。  
 「根源語とは単独語である」という、世界はわたしとは関係なく、単独にそれ自身として存在しているという物の見方は、必然的に「世界は人間のとる態度によらない。世界は一つである。」という結論を導く。これがわたしたちの常識的、日常的なものの方である。  
 プーバリの「根源語とは、単独語ではなく、対応語である」ということは、「世界は人間のとる態度によらない。世界は一つである。」というものの見方は「ろ」に関連しているという。ショウゲキのことばにはほかならない。それは、わたしたちの世間は間違っているという驚くべきシテキである。  
 仏教には、インド大乘仏教思想の二つの頂点と言われている、「空・中観」の思想と「唯識」の思想がある。「空・中観」の思想は龍樹に代表され、釈尊の縁起の法を空としとらえ直し、般若思想を空観として確立したと言われている。「唯識」の思想は無着や天親に代表される。「無明」と言われる私たちの心の闇のしくみをクワイの明らかにしている。  
 その唯識には、三性説というものの見方がある。「分別性」「依他性」「真実性」である。この三性説は示唆(ひそかに)でいて、この教えにふれていくべんに視野が広がったような感動を覚えた。わたしだけでなく、きっと多くの方がたにとつてもそうであらう。  
 「分別性」とは、センテンス的なものがバラバラに存在しているというものの見方である。つまり単独語としてのものを見る見方である。それをプーバリは、「単独語は、根源語ではない」とし、あえて語らず、いきなり対応語から話を進めている。しかし仏教は、単独語からものを見る人間のメカニズムを問題にした。  
 「わたし」(それ) (あなた)などが別々にセンテンス的に存在していると見る認識能力を「分別知」という。「分別知」によって「分別性」は成り立っている。「分別性」は、我執(わがこころ)がつくりだした虚妄分別(いつはりべつべつ)ではない。つまり「分別性」は成り立っている。無意識にそのような発想で物を見、考えて、それを常識として生きているのがわたしたちである。唯識はこの「分別性」の上に築かれる世界は顛倒妄想の世界であることを明らかにする。  
 「依他性」とは、一切のものは互いに依存しあっているという見方である。釈尊は、この世の中の出來事は全て、因と縁によつて起り、縁が合えば生じ、縁が離れば滅びるので、固定的な永遠不変の実在はなく、すべてのものは他に依つている」という「縁起の法」を説いた。縁起とは因縁生起の略で、因縁によらず単独で生起するものはないというのが釈尊の教

えである。これはだれも否定できない事実である。  
 これはプーバリが言う「対応語」の視点であるが、問題は対応語には「われーそれ」と「われーなんじ」の二つがあるということである。  
 このことに関して、訳者の植田重雄さんは次のような「訳註」をしている。  
 「われーなんじ」、「われーそれ」というようにかならず対応して、他の対応は存在しない。単独に「われ」、「それ」が結びついて根源語をつくっているのではなく、「われーなんじ」、「われーそれ」の根源語が、これらすべてに先行している」だからプーバリは「は」にこの正しいものの見方である対応語から話を始めるというシテキである。つまり、「われーなんじ」という根源語と「われーそれ」という根源語がすべてのはじめであり、それ以外はありえない。  
 しかし、わたしたちは「ありえない」考え方をまずとらわれて生きている。それで仏教は、「分別性」つまり「単独語」からもの考えるこのメカニズムを明らかにし、それを超える道を開かせる。そこから始める。  
 「真実性」とは、一切のものは根源的にはつながり合っていて、一つのものであるという見方であり、本来的にはすべてのものは相を離れた無相のものであるというのが真実のすがたであるというので、「真実性」という。真如(まに)「如」ともいう。これを見抜く智慧を「無分別智」という。いわゆる「般若・智慧」である。  
 問題は、「X」性から「Y」性を見るか、「Z」性から「Y」性を見るかである。  
 単独語は「X」性の問題である。それは「縁起の法」に反することであり、釈尊が否定されたことである。その釈尊の否定された「X」性から「Y」性を見る、つまり別々の存在をまずあつて、それからつながりを見る視点。これがわたしたちの普通の物の見方である。  
 (中略)  
 すでにして釈尊は「諸行無常・諸法無我」の教えをおとして、実体化・固定化してものを見ることの誤りを明らかにした。「諸行無常」とは、すべての現象は変化し続けており、永遠に不変なものはないということである。「諸法無我」とは、すべてのものは因縁によつて生じたものであつて実体がなく、独立して成立するものはないので、「我」は存在しないということである。  
 この釈尊の「縁起の法」、「諸行無常・諸法無我」の教えは龍樹菩薩の空観に、そしてまた天親菩薩などの唯識思想にひきつがれていった。「縁起」を龍樹菩薩は「空」ということばで表現し、実体的に物を見る見方の誤りを明確にした。「空」を「実体」としてあるのではないが、現象としてはある」と言い換えるともわかる。(中略)  
 「Z」性から「Y」性を見る視点は、まさにプーバリが問題にした「われーなんじ」の視点であるが、それは仏教の無分別智や般若後得智や空の思想に密接に関連づけられる。  
 (志願原文)「如来のまごころの中を」による

問一 〳〵〶部A～Fの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。  
解答番号は 〳 〵 〶。

A シテキ

B ブンダン

C センテン

E タケケイ

① 悠々シテキの生活。  
② プロにヒツテキする実力。  
③ 子報がデキチュウする。  
④ 訳語をデキシュする。  
⑤ テンキを受ける。

① 根も葉もない噂だとダンゲンする。  
② ブンダの雛児。  
③ 異教徒をダンアツする。  
④ 犯人逮捕で事件はダイダンエンを迎えた。  
⑤ ダンゴウが露見する。

① センスイして湖底を探る。  
② センリツにのせて歌う。  
③ 言葉のヘンセンを調べる。  
④ センレンされた紳士。  
⑤ ここをセンドと稱い立つ。

① 善行をショウヨウする。  
② カンショウ地帯をもうける。  
③ 様々なイヨウを凝らす。  
④ 事態をショウウアクする。  
⑤ ステジュールにシショウをきたす。

① ショタイを切り盛りする。  
② アクタイをつく。  
③ 毎朝ラジオタイソウをする。  
④ 天下統一のタイモウを逃げる。  
⑤ タイマンなプレーに野次を飛ばす。

注11 訳註：翻訳者がつけた説明の文。  
注12 般若後得知「般若（智慧）」に基づく正しい世界認識のあり方。

問二 〳〵〶部a～dに入る最も適当な言葉を、次の①～⑤の中から一つずつ選び、それぞれマークしなさい。同じ記号は一度しか選べません。  
解答番号は、

F メイモウ

① メイサイ柄の服を着る。  
② 京都のメイショウを巡る。  
③ メイリョウな発音をする。  
④ 座右のメイを質問する。  
⑤ このメイダイは真である。

① a が 7、b が 8、c が 9、d が 10。  
② しかし ② だから ③ つまり ④ そして同時にまた ⑤ あるいは

問三 〳〵〶部a～dに入る最も適当な言葉を、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。  
解答番号は、

① おそらく ② もつとも ③ かつて ④ あえて ⑤ あやうく  
① 常識的 ② 表面的 ③ 固定的 ④ 部分的 ⑤ 根底的  
① 乾坤一擲 ② 縦横無尽 ③ 隔靴搔痒 ④ 单刀直入 ⑤ 婉曲注遠

問四 〳〵〶部i「必然的」、ii「示唆」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は、iが 〳、iiが 〵。

i 「必然的」

ii 「示唆」

① 世間一般に知れ渡っているさま  
② そのように帰着せざるをえないさま  
③ あることが起こらうと考えられるさま  
④ 出来事が予想もできない時に起こるさま  
⑤ ありのままて人の手が加わっていないさま

① 強い訴えかけ  
② 重大な考え  
③ 様々な解釈  
④ それとない教え  
⑤ 思いがけない発見

問二 〳〵〶部a～dに入る最も適当な言葉を、次の①～⑤の中から一つずつ選び、それぞれマークしなさい。同じ記号は一度しか選べません。  
解答番号は、

① a が 7、b が 8、c が 9、d が 10。  
② しかし ② だから ③ つまり ④ そして同時にまた ⑤ あるいは

問三 〳〵〶部a～dに入る最も適当な言葉を、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。  
解答番号は、

① おそらく ② もつとも ③ かつて ④ あえて ⑤ あやうく  
① 常識的 ② 表面的 ③ 固定的 ④ 部分的 ⑤ 根底的  
① 乾坤一擲 ② 縦横無尽 ③ 隔靴搔痒 ④ 单刀直入 ⑤ 婉曲注遠

問五

解答番号は 16。

- |          |      |
|----------|------|
| X        | Z    |
| ( ) X 依他 | Y 分別 |
| ( ) X 真実 | Z 真実 |
| ( ) X 分別 | Y 分別 |
| ( ) X 分別 | Z 依他 |
| ( ) X 依他 | Y 真実 |
| ( ) X 真実 | Z 分別 |
| ( ) X 真実 | Y 依他 |
| ( ) X 真実 | Z 分別 |

に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑥の中から選び、マークしなさい。

問六

線部1「世界は人間が語る根源語の二重性にもとづいて、二つとなる」とありますが、筆者はこのアローバーの言葉

- をどのように捉えていますか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。
- 解答番号は 17。
- 「われ」が対象化した世界を言語を用いて表現すると、世界は二つは完全に重なるため、世界そのものと、ことは同一化した世界があると捉えている。
  - 「われ」のことは正確で便宜的であることを自覚し、正確なことはを使用することで、正確なことはでは決してない真理に到達すると捉えている。
  - 「われ」の語ることばは世界をさす指でしかなく、世界ではないので、指ばかり見ても世界は見えず、世界には心で気づくしかない捉えている。
  - 「われ」の用いることばは、「われ」の属する文化が培ったことばなので、東西の文化圏によって異なる認識の枠組みが存在すると捉えている。
  - 「われ」の生きる世界は「われ」の二つは二種類があり、その二つは二種類があることが明らかになったため、世界もまた二つがあると捉えている。

問七

線部2「このことは、仏教から言えば、大変重大な意味をもつ」と筆者が述べているのはなぜでしょうか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 18。

- 「根源語とは、単独語ではなく、対応語である」ということは、世界は人間の態度に因縁なく存在しているという世界観を批判しているものであって、自分と他者は本来一体のものであると見る仏教と重なっているから。
- 「根源語とは、単独語ではなく、対応語である」ということは、人間が命を受ける背景には想像できないほどの歴史が存在することを踏まえて、自分と自分が出会う人物とは深い因縁があると見る仏教と重なっているから。
- 「根源語とは、単独語ではなく、対応語である」ということは、元はすべてが個別に存在しているという日常論的な見方を否定するものであって、一切は互いに依存しあっていると見る仏教と重なっているから。
- 「根源語とは、単独語ではなく、対応語である」ということは、厳密に言えば、この世にあるものはすべて存在しないという否定的観点をもって、すべての価値を等しいと見る仏教と重なっているから。
- 「根源語とは、単独語ではなく、対応語である」ということは、「わたし」と同時に「わたし」を超えるものとして「それ」や「あなた」が存在しているという前提で、それぞれが関係していると見る仏教と重なっているから。

問八

次に示すのは、問題文を読んだ六人の生徒がそれぞれの感想を述べた、という体で書かれた文です。問題文の内容に照らして明らかな誤りを含むものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 19。

- 生徒A「わたしたちがどんな状況になるのも、起こってくることはすべて因縁なんだから。」
- 生徒B「仏教は、わたしたちが思いのままにすることが一番大切だと示しているんだね。」
- 生徒C「仏教は、わたしたちが世界の真の姿を捉えられないことを心の闇として教えているんだね。」
- 生徒D「分別性から佛を考へることこそが当たり前だと思っていたけど、いわれでみると、視野が狭かったな。」
- 生徒E「具体的に物を見る見方は誤りで、関係しあっているという現象として物を見ることが「空」なんだね。」
- 生徒F「まったく知らなかったけど、わたしたちは普段無意識に「根源語とは単独語である」と考えているんだね。」



# 国語（総合評価型）

総合型選抜

公募型学校推薦選抜

英

公募型学校推薦選抜  
語数

公募型学校推薦選抜  
学生

公募型学校推薦選抜  
物化

公募型学校推薦選抜  
学

公募型学校推薦選抜  
国

公募型学校推薦選抜  
語

一般選抜

一般選抜英語

一般選抜日本史

一般選抜世界史

一般選抜生物

一般選抜化学

一般選抜数学

一般選抜国語

問五 ……線部 a 「むつまじらひて」 b 「あつかひけり」 c 「つつみかねて」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は **15** ～ **17**。

- 15 a 「むつまじらひて」  
① 味方に引き入れて  
② 仲良く談話して  
③ 親しく交際して  
④ 細かく打ち合わせて  
⑤ 気軽に相談して
- 16 b 「あつかひけり」  
① 看護した  
② 激励した  
③ 対面した  
④ 心を秘め難くて  
⑤ 思いやれなくて  
⑥ じつとがまんして
- 17 c 「つつみかねて」  
① 遠慮なく  
② 取り囲むようにして  
③ 取柄よく  
④ 敢て決断  
⑤ 敢て決断  
⑥ 不可決断

問六 ……線部 A 「思ひもたらず」と最も近い意味になる漢文の表現を、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **18**。

- 18  
① 無決断  
② 未決断  
③ 不能決断  
④ 不敢決断  
⑤ 敢て決断  
⑥ 不可決断
- 問七 ……線部 B 「祈りてたべかし」の「た」に当てられる漢字と同じ漢字を、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **19**。
- 19  
① 思  ② 下  ③ 杯  ④ 物  ⑤ 信

問八 ……線部 C 「病少おこたりて見えければ」の口語訳として最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **20**。

- 20  
① 病人が少し油断したように見えたので  
② 病人が少し油断したように見えたので  
③ 病気が少し快方に向かったように見えたので  
④ 病気が少し快方に向かったように見えたので  
⑤ 病状が少し重くなったように見えたので  
⑥ 病状が少し重くなったように見えたので

問九 ……線部 D 「思はずげにまもりあたるに」とありますが、なぜ「思はずげ」であったのですか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **21**。

- 21  
① 臨終が近いという壬生寺の地蔵菩薩のお告げがあったのに、男の病状に変化がなかったから。  
② 臨終間近で悲しい別れが迫っていることを、病人に悟られないようにと気遣ったから。  
③ 必ず連れ立って壬生寺に参詣してきた旧友であって、相手の気持ちが自然と理解できたから。  
④ 何としても救ってほしいと、一切の雑念を捨てて一心不乱に祈り続けるべきだと思ったから。  
⑤ もう病気が治っているだろうと思っていたのに、臨終が近いと地蔵菩薩から告げられたから。

問十 ……線部 E 「かじかのこと」の具体的な内容に含まれるものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **22**。

- 22  
① 急いで壬生寺に参詣し、極楽浄土への引導を地蔵菩薩に祈願したこと。  
② 今回の一件によって、世のはかなさをつくづくと思い知らされたこと。  
③ 穏やかな臨終を迎えられるよう、互いの協力を約束し合っていたこと。  
④ 壬生寺の地蔵菩薩が、極楽浄土へと導くためにやって来るらしいこと。  
⑤ 臨終の間近のことを知らせる使者が、あわてて住居にやって来たこと。

問十一 ……線部 F 「半時はかり」とは、およそどのくらいの時間ですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **23**。

- 23  
① 一〇分  
② 三〇分  
③ 六〇分  
④ 九〇分  
⑤ 一二〇分

問十二 次の文章を読んで、後の(一)～(二)の問いに答えなさい。

壬生寺で今も行われている重要無形民俗文化財の壬生狂言は、**①**「風姿花信」や**②**「申楽談陣」など多くの能楽論書をも著した世阿弥や、その父の観阿弥らによって能が大成されたのと同じく、鎌倉時代に成立したと伝えられている。一般の狂言と同じく、すべての演者が仮面を着けて演じる。

- (一) ……線部①～⑤の中から誤っているものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は **24**。  
(二) ……線部「世阿弥よりも後の時代の人物を、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **25**。

- 24  
① 阿仏尼  
② 山崎宗鑑  
③ 兼好法師  
④ 藤原定家  
⑤ 源実朝